

所属・氏名（ 保健医療学部 医療技術学科 氏名：中原 正子 ）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (報告・発表) ストレス応答 miR10b エクソソームを標的とする新規アルツハイマー病評価法の開発	代表	2021 年 4 月 - 2024 年 03 月	科研費 基盤研究 (C)	ストレスに応答して血管から発現する miR10b は血中エクソソームに存在するため、アルツハイマー病の新規評価法になり得ることを提案した。
2 (学術論文) フェルラ酸による神経細胞保護作用の分子メカニズム解析《共同筆頭論文》	共著	2020 年 12 月	Molecules. Vol.26, No.1 pp90	ストレスによる神経細胞のアポトーシスに対して、フェルラ酸が保護作用をもたらすことを発表した。 Nakayama H, <u>Nakahara M</u> , Matsugi E, Soda M, Hattori T, Hara K, Usami A, Kusumoto C, Higashiyama S, Kitaichi K.
3 (報告・発表) フェルラ酸による神経細胞保護作用の分子メカニズム解析	共著	2020 年 5 月	第 61 回 日本生化学会中国・四国支部例会 (誌上開催)	フェルラ酸の神経細胞保護機序を分子レベルで解析した。この結果はアルツハイマー型認知症の予防へとつながる。 <u>中原正子</u> , 松木依理奈, 楠本智章, 中略, 東山繁樹, 北市清幸, 中山寛尚
4 (報告・発表) フェルラ酸薬効に対する脳内血管内皮細胞の新規検査法開発	共著	2020 年 5 月	日本私立学校振興・共済事業団 2020 年度 女性研究者奨励金 採択	フェルラ酸によって脳内の血流が改善することに着目し、アルツハイマー型認知症の早期発見になる新規検査法を提案した。
5 (報告・発表) 機能性着圧ソックスの効用評価	共著	2019 年 8 月	第 14 回臨床検査学会教育学会学術大会 (熊本)	購入者が最適な着圧ソックスを選択できることを目的に、脈波、血圧、脂肪率、ふくらはぎ外径計測など、様々な検査結果を解析した。 嘉戸晴菜, 中村純, 森岡勇太, 柳本麻衣, 井戸端康宏, <u>中原正子</u>
6 (学術論文) Semaphorin 3F and Netrin1: The Novel Function as a Regulator of Tumor Microenvironment.	共著	2018 年 11 月	Frontiers in Physiology Vol.9	癌の微小環境を制御する新規因子としてセマフォリン 3F とネトリン 1 を発見した。 Nakayama H, Kusumoto C, <u>Nakahara M</u> , Fujiwara A, Higashiyama S.
7 (学術論文) Fasting-dependent Vascular Permeability Enhancement in Brown Adipose Tissues Evidenced by Using Carbon Nanotubes as Fluorescent Probes.	共著	2018 年 9 月	Scientific Reports Vol. 8, No.1	カーボンナノチューブを蛍光標識し、褐色脂肪細胞につながる血管の可視化に成功し、空腹によりさらに増強することを発見した。 Yudasaka M, Yomogida Y, Zhang M, <u>Nakahara M</u> , Kobayashi N, Tanaka T, Okamatsu-Ogura Y, Saeki K, Kataura H.
8 (学術論文) miR-10b Deficiency Affords Atherosclerosis Resistance 《筆頭論文》	共著	2018 年 1 月	doi: https://doi.org/10.1101/248641 bioRxiv (preprint)	ヒト血管内皮細胞の機能変化にはマイクロ RNA である 10b が関与していることを発見した。 <u>Nakahara M</u> , Kobayashi N, Oka M, Nakano K, Okamura T, You A, Saeki K.